

栗崎 由貴子 先生      科目：成人言語障害学Ⅰ

成人言語障害学は「失語症」を学ぶ科目です。この科目はⅠとⅡに分かれており、私が担当している成人言語障害学Ⅰは、失語症に関する洪大な学問領域の入口へと案内する初歩的位置にあります。

歴史上、最も古い失語症の記録は、古代エジプトの外傷手術に関する医学記録のエドウィン・スミス・パピルスにあるといわれています。この時代からずっと、われわれ人間は「失語症」を研究し続けています。その研究内容は、文化や社会情勢の変化、医学の進歩とともに刻一刻と形を変えながら失語症に苦しむ方たちに貢献してきました。この研究の中心を担う「ことばの専門職」が言語聴覚士です。学生には、過去の偉業を成した先人たちが大切に続けてきた、ことばへの熱い想いや失語症で苦しむ方たちに真摯に向き合う姿勢を受け継いでいって欲しいと思っています。そして、古代から脈々と受け継がれる臨床研究に寄与する言語聴覚士を目指すことに誇りと自信を持って学んで欲しいと望んでいます。講義では、こうした想いが届くことを願いつつ、学生一人ひとりのたたずまいをしっかりと受け止めながら語りかけるようにしています。